

## 【資 料】

# 総合看護実習における臨地実習指導者が認知する学生の学び

## — 看護管理の視点に着目して —

村田美和<sup>\*1</sup>, 村田由香<sup>\*2</sup>, 新沼剛<sup>\*3</sup>, 新道幸恵<sup>\*4</sup>

## 【要 旨】

本研究の目的は、総合看護実習における臨地実習指導者が認知する学生の看護管理の視点の学びを明らかにすることである。本研究は、質的記述的研究であり、対象者には研究の目的、方法、内容および倫理的配慮について説明し同意が得られた臨地実習指導者7名（A看護大学の総合看護実習施設の内の4施設）に半構成的面接法を行った。その結果、臨地実習指導者が認知した看護管理の視点の学びは、【看護ケアを支える仕組みと役割】【個人とチーム全体の時間管理と多重課題】【リーダーや認定看護師から学ぶリーダーシップ】【患者中心のチーム医療と連携】【個人情報保護に関する情報管理】【病棟管理者のマネジメントと役割】【事前学習から広がる実習目標の学び】【気づきにくい安全対策と教育支援のプロセス】【学生の学びから得られる指導する側の学び】の9の категорияが抽出された。学生は事前学習による自己目標設定と臨地実習指導者の学生の経験の場づくりにより実習の学びを深めていた。

【キーワード】 看護管理, 実習指導者, 学生の学び

## I はじめに

2007年「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」が出され、各看護基礎教育機関において統合分野・統合科目が創設された。学生は基礎・専門科目で履修した内容を臨床で活用するため、チーム医療、看護管理、医療安全等を学ぶとともに複数の患者の受け持ちや夜間実習を含めた臨地実習を行なうようになった。

A看護大学では、看護サービスの場で看護職の一員である責務を自覚しながらリーダーシップ、メンバーシップやマネジメントの視点でチームケアを理解するとともに、大学の教育理念であるヒューマン・ケアリングの視点から看護チーム活動の課題を見出し、マネジメントに関する基礎的能力を養うことを目的として総合看護実習を実施している。そして、学生が4年間の学びを自ら統合し、就業の準備を整える実習と位置づけており、領域実習までの主に個を対象にした看護の探求から、チーム単位や病棟単位といった集団へと視点を転じて、複数患者のケアや多重課題を体験する実習である。臨床での看

護経験が少ない学生にとっては、A大学が卒業時の到達目標とする看護実践能力の5つの力とするうちの看護判断力、チーム構築力、コミュニケーション力、ヒューマン・ケアリング関係形成力を駆使する組織全体を視野に入れた臨床現場を実習前からイメージすることは非常に困難である。松谷(2007)は、新人看護師は慣れない業務を効率よく優先順位を誤らずにケアリングを行い意図的な看護ケアを提供する時間を生み出すことに苦慮していると明らかにしており、実習前の学内演習により、臨床の現場で経験する状況を盛り込み、講義と臨地実習の架け橋、つなぎとして学内演習を位置づけることが重要であると述べている。統合分野における看護管理の視点での学生の学びについての先行文献はあまり見当たらず、さらには学内演習、シミュレーション学習を取り入れているところは、いまだ少ないのが現状である。

そこで、本研究では総合看護実習において臨地実習指導者（以下、指導者とする）が認知する学生の学び、特に看護管理の視点での学びを明らかにする

\* 1 熊本赤十字病院

\* 2 日本赤十字広島看護大学

\* 3 日本赤十字秋田看護大学

\* 4 NPO法人看護アカデミア幸

ことを目的とし、得られた結果はシミュレーション学習や学内演習の参考にするために取り組んだ。

## Ⅱ A 看護大学の総合看護実習の概要

### 【実習目的】

医療施設・地域等の看護サービスの場で、看護職の一員であることの責務を自覚しながら、保健医療福祉チームにおけるケア実践に参加し、リーダーシップやマネジメントの視点でチームケアについて理解する。さらに、ヒューマン・ケアリングの視点から、看護チームの様々な看護活動における課題を見出し、マネジメントに関する基礎的能力を養う。

### 【実習概要】

中四国等の21施設に、2～6名ずつ学生配置。2週間の実習を行っている。実習目標にあわせて学生自身が特に学びを深めたい内容、具体的な看護管理に関する内容について、実習施設および部署のチームケアを事前学習として調べ、自己の学習目標を設定し、日々の実習内容を事前に計画して実習に臨んでいる。実習内容は、病院および病棟概要オリエンテーション、病棟管理者シャドウイング、夜間実習のほか、チームの一員としてケアをする看護師とともにケアの実践を行う。実習報告会では、実習病棟の看護管理の視点で臨床現場における看護チームケアの課題を抽出し、課題についての解決方策の立案し発表する。指導体制は担当教員のラウンド形式で、担当教員は実習期間中に1から2回のラウンドで、その際に学生、指導者、病棟看護管理者と、それぞれ面談して目標達成度の確認、達成度に合わせて実習内容の再検討、また最終カンファレンスに向けての指導、準備等を行うことになっている。

## Ⅲ 用語の定義

看護管理の視点：看護組織内におけるリーダーシップ、メンバーシップやマネジメント、チーム医療の視点とする。

## Ⅳ 研究目的

A 看護大学の総合看護実習での臨地実習指導者が認知する、学生のリーダーシップ、メンバーシップやマネジメント、チーム医療の看護管理の視点での学びを明らかにする。

## Ⅴ 研究方法

### 1. 研究デザイン

質的記述的研究デザイン

### 2. 研究対象者

平成23年度9月実施のA看護大学の総合看護実習施設の21施設で直接実習指導を行った指導者のうち、研究の趣旨を理解し同意を得た4施設の7名

### 3. データ収集期間

平成24年3月から4月

### 4. データ収集方法

データ収集は、個別に、プライバシーが確保できる環境でインタビューガイドに基づいて半構成的面接を行った。その内容を研究対象者の同意を得てICレコーダーで録音した。まず、対象者の背景としての看護師経験年数と領域、現任教育や臨地実習指導関連の研修の有無と指導経験年数、その他に教育に関わる経験について語ってもらった。そして、平成23年度の総合看護学実習においてリーダーシップ、メンバーシップやマネジメント、およびチーム医療について、指導を担当した学生が学びを深めたと思われる看護場面とその理由、学びが困難であったと思われる看護場面とその理由等、看護管理学における学内演習についての意見等を語ってもらった。

### 5. データ分析方法

録音された面接の語りのすべてを逐語録に起こし、精読し本研究の目的である学生の看護管理の視点における実習の学びの語りの部分をコード化し、その類似性と相違性を検討しながら分類し、より抽象的なレベルでカテゴリーを抽出し命名した。分析の経緯において、3名の研究者で検討を行った。

### 6. 倫理的配慮

A 看護大学の平成23年度に総合看護実習施設の看護部長に研究の趣旨、目的、方法と倫理的配慮を説明し同意を得た。次に、指導者には個別に文書で研究の趣旨、目的と方法、倫理的配慮を説明し同意を得た。この際には、研究協力に対して看護部長や研究者自身からのパワーが生じないように十分留意し研究協力は自由意思であるとともに、同意した後でも辞退でき、辞退しても不利益を被らないこと、面接で答えたくないことがあれば回答しなくてもよいことを口頭と文書で説明し、納得が得られたのちに文書にて同意を得た。面接に際しては、プライバシーが保てる場所を選択し、心身の負担にならないように配慮すること、面接内容は研究者以外に閲覧できないように保管し、個人が特定するデータはすべてID化すること、研究目的以外に得られたデータは使用しないこと、研究終了時はすべてのデータを消去、シュレッダーにかけ廃棄することを口頭および文書で約束した。また、研究結果は関連学会で

の結果の発表等を行うことを加えて説明し、了承を得た。さらには、また A 看護大学研究倫理審査委員会の承認を得て研究を実施した（審査番号1113）。

## VI 結 果

### 1. 研究対象者の背景

研究対象者は、全員女性であり、看護師経験年数15～27年で平均看護師経験年数は23.6年であった。7人中6人は中間看護管理者、1名は病棟での教育担当者であり、全員が院内外で臨地実習指導関連の研修を受講していた。インタビュー時間は33～44分で、平均38.4分であった。指導者7名全員が総合看護実習施設の各部署の主な指導者であり、実習初日のオリエンテーション、実習最終日の報告会に参加していた（表1）。

### 2. 臨地実習指導者が認知する看護管理の視点での学生の学び

データ分析の結果、24のサブカテゴリーと9のカテゴリーが抽出された（表2）。

以下、本文中でのカテゴリー名を【 】, サブカテゴリーを《 》, 代表的な語りの部分を「 】, 語りの補足を（ ）で示す。

#### 1) 【看護ケアを支える仕組みと役割】

このカテゴリーは、それまでの学内での講義や演習、臨地実習では得られなかった学びによる学生自身の臨床現場での視点の変化を示しており3つのサブカテゴリーから生成された。

《学んできた看護実践のベースの整え方》

「見るものが多んですよ、今までの臨床実践と違

表1 研究対象者の背景

研究対象者	看護師経験年数	職位	管理研修の有無	教育指導研修の有無
A	24	看護師長	あり	あり
B	27	看護師長	あり	あり
C	22	看護師長	あり	あり
D	15	看護師	なし	あり
E	24	看護主任	あり	あり
F	16	看護係長	あり	あり
G	37	看護師長	あり	あり

表2 臨地実習指導者が認知する学び

カテゴリー	サブカテゴリー
看護ケアを支える仕組みと役割	学んできた看護実践のベースの整え方 日々違う担当者からの学びから視点の変化と役割の違い インシデント事例から学ぶ事故防止対策
個人とチーム全体の時間管理と多重課題	個人を含めたチームとしての時間管理 緊急時に発揮される多重課題解決とリーダーシップ 意図的に観てアセスメントする看護師の思考過程と判断基準 多重課題と優先順位判断の連続である夜間実習
リーダーや認定看護師のリーダーシップ	認定看護師のスタッフ教育支援 チームをまとめ、的確に指示をするリーダーの役割
患者中心のチーム医療と連携	多職種協働によるラウンドと合同カンファレンスでの看護の役割 報・連・相から学びとる看護チームの連携 他病棟、他部門とのシームレスなケアのための引き継ぎ
個人情報保護に関する情報管理	看護師間の情報共有の場所と方法への配慮 インフォームドコンセント時の患者および家族への配慮
病棟管理者のマネジメントと役割	医師、他病棟、スタッフと行う効果的な空床管理 病棟管理者としての安全管理とストレスマネジメント 看護師長のビジョンと影響 看護師長とリーダーの情報共有と連携
事前学習から広がる実習目標の学び	他者と共有し支援を得るために必要な実習の具体的計画立案の必要性 事前学習による看護組織のアセスメント
気づきにくい安全対策と教育支援のプロセス	気づきにくい安全のための日常的な看護師の工夫 理解しづらい成長過程を支援する先輩看護師の教育支援
学生の学びから得られる指導する側の学び	学生ならではの率直な質問とよりよい実践への提案 誰でも必要な看護管理の視点

うから。安全だったりもそうだし、環境を整えるのもそうだし。臨床実践のベースになるものが全部管理的側面なんだけど。」

〈日々違う担当者からの学びから視点の変化と役割の違い〉

「病棟の中で、メンバーならメンバーシップ、リーダーならリーダーシップっていうような役割がある、役割っていうものを、その日のチームメンバーとして、どういった行動をしているか、見ていただいた気がします。」

〈インシデント事例から学ぶ事故防止対策〉

「(中止薬がセットされていた場面を学生が見て)ダブルチェックっていうか、いろんな目で見て確認してますっていうふうに言ったので、誤薬とかですね、学ばれていたんじゃないかと思います。」

## 2) 【個人とチーム全体の時間管理と多重課題】

このカテゴリは、4つのサブカテゴリで生成されており、日々の多重課題の連続である看護師個人やチーム全体の時間管理について語られていた。

〈個人を含めたチームとしての時間管理〉

「自分の能力を理解して、きちんと先輩に依頼するとか、時間管理をすることの必要性とか。経験年数とかいろいろあるけれども、(時間管理によって)チームとしてうまく回っていくんだ、とかいう学びはあったり。」

〈緊急時に発揮される多重課題解決とリーダーシップ〉

「記録を拝見していて、私たちからみればちっちゃい気づき、でも学生にとっては、それがおっけい気づきで(中略)カンファレンスをしていて、緊急入院が来たっていう場面があったみたいで、ナース達がすぐに行動に移って入院の準備をしたりとか。行動の速さ(中略)切り替えの早さ。書いてあった(学生の)記録を読みました」

〈意図的に観てアセスメントする看護師の思考過程と判断基準〉

「何人かをもって、優先順位を一応考えながら動かないといけないとかっていうことも説明を受けながら動いていたと思うから。意識化できていたと思う。」

〈多重課題と優先順位判断の連続である夜間実習〉

「たくさんの業務が、看護師にはあるんだってことは夜間実習をすることで学んでいる。かつ、その優先度をつけなければ、その業務はこなせないことも。」

## 3) 【リーダーや認定看護師のリーダーシップ】

このカテゴリは、教育指導的役割、チーム全体

の時間管理を行うためのリーダーシップの学びで、指導者によりオリエンテーションや意図的に見せて学ばせる場面から病棟内でのリーダーシップ役割の学びが語られ、2つのサブカテゴリから生成された。

〈チームをまとめ、的確に指示をするリーダーの役割〉

「テキパキとしていて、きちんと指示を出してチームをまとめているように映ったみたいで、あの人の下で働いてみたいという子もいました。はっきりとしていて、的確でいいという評価を得ていました。」

〈認定看護師のスタッフ教育支援〉

「重症集中の認定ナースに、ICUの子は多分ついたと思うんで、その人が多分日々の業務をしながらも指導的な立場、他のスタッフの指導とか、というところをちょっと見たんじゃないかなあ。(中略)意図的に見せたんじゃないかなと思うんですけど、役割モデルになる人(中略)認定が現場にいるんだってところ」

## 4) 【患者中心のチーム医療と連携】

このカテゴリは、看護師間、多職種間、他部門間の連携における患者中心のチーム医療のシステムと看護の役割の学びであり、3つのサブカテゴリから生成された。

〈多職種協働によるラウンドと合同カンファレンスでの看護の役割〉

「多職種のカンファレンスに参加して、看護師さんがどんな発言をしていたかとか結構詳しく学べている。チーム医療は見るだけで学べているんですよ。」

〈報・連・相から学びとる看護チームの連携〉

「報告・連絡・相談の重要性のところをよくわかった人っていうのが結構いたんですよ。(中略)やっぱり夜間実習することによって。それだけ、たくさんのがあったら、それは当然、報告・連絡・相談しなければミスは起こると思う、実感でわかるみたいで。」

〈他病棟、他部門とのシームレスなケアのための引き継ぎ〉

「病棟間での申し送りは多分、電子カルテを介して、うちでやったことを病棟ではここをお願いします、ここを気を付けて観てほしいところとか、引き継いで欲しいところをきちっと、見てきていると思うんです。転棟は多分、学生を(見学に)つけているんですよ。」

## 5) 【個人情報保護に関する情報管理】

このカテゴリは、個人情報に関する配慮の学び

である。指導者は特にこの学びに対して学生は鋭い視点も持って学べていると語り、2つのサブカテゴリーで生成されていた。

#### 《看護師間の情報共有の場所と方法への配慮》

「患者の視点に立つこともできるし。パソコンが開いているってこと自体が個人情報の漏洩につながるとかって。気づいていた。」

#### 《インフォームドコンセント時の患者および家族への配慮》

「詰所の中がざわついて。ざわついているっていうか、確かに狭くって。その中で、インフォームドコンセントすることが一体どういうことなんかっていうのが。(中略) やっぱり、ちょっと、なんかおかしいっていうのは(学生は)理解できています。」

### 6) 【病棟管理者のマネジメントと役割】

このカテゴリーは、病棟運営、看護を管理する役割についての学びの語りで4つのサブカテゴリーで生成された。

#### 《医師、他病棟、スタッフと行う効果的な空床管理》

「うちはベッドコントロールが大事だから、ドクターと師長と朝からラウンドしているのをみて。有効にベッドを回していくところ」

#### 《病棟管理者としての安全管理とストレスマネジメント》

「スタッフのストレスマネジメントについて、師長さん、こうしているってところが伝えていることがわかる。デスクカンファレンスを見ると、師長さんの伝えたことを自分の中に落としとしてイメージ化しやすかったかな。」

「問題が発生した時って結構見えやすいですよ。リスクマネジメントに対しての、チームカンファレンスを見た人は、師長さんは、こう関わっていたっていう感じで、リスクマネジメントの視点で(実習記録が)書いていたりするんです。」

#### 《看護師長のビジョンと影響》

「師長さんの、こんな病棟にしたいという価値観だったりとか、運営にかかわる視点だったりとか、結構話してくださったので。すごく驚いたみたい。驚いたというか、いい学びができたみたい。」

#### 《看護師長とリーダーの情報共有と連携》

「師長とチームリーダーの朝のミニカンファミたいなのを横で聞いていて。(中略) いろんな人の情報交換、ディスカッションとは見てたんじゃないかな。」

### 7) 【事前学習から広がる実習目標の学び】

このカテゴリーは、実習に臨む前の講義や演習、自己学習の重要性、実習の備えが実習で効果的に学

ぶことができるといった語りで2つのサブカテゴリーから生成された。

#### 《他者と共有し支援を得るために必要な実習の具体的計画立案の必要性》

「計画の立て方ですかね。(中略) これを達成するために、この人について観てみようとか、ちゃんと視点を明らかにして行動を提示している。とてもわかりやすい。凄い、よかった。」

#### 《事前学習による看護組織のアセスメント》

「人事管理とか、患者さんの管理であったり、リスクマネジメントであったり。勉強してきてるみたい。(中略) 師長さんがこういうことしなければいけないとか、割り振りを、こうしなければならないとか。リスクマネジメントのことを、その視点で観ていって最初に言ってたから、そういう視点でみたのかな。」

### 8) 【気づきにくい安全対策と教育支援のプロセス】

このカテゴリーは、日々の指導担当者にシャドウイングするだけでは困難である学びの認知である。看護師の業務改善や危機管理における日常的工夫や教育支援のプロセスについて語られた。2つのサブカテゴリーから生成された。

#### 《気づきにくい安全のための日常的な看護師の工夫》

「リスクが起こらないようにマネジメントはしているわけなんですよ。そこって、実は見にくいわけじゃないですか。」

#### 《理解しづらい成長過程を支援する先輩看護師の教育支援》

「(先輩看護師に新人看護師が質問した場面を見て) 調べなさいと発言した、その表面的なところしか見えてなくて、何故その発言をしたのか、その後のフォローはどうなっているのかという多角的に物事が捉えられていない。」

### 9) 【学生の学びから得られる指導する側の学び】

このカテゴリーは、学生の学びを支援して過程と結果で得られた指導する側の学びである。2つのサブカテゴリーから生成された。

#### 《学生ならではの率直な質問とよりよい実践への提案》

「こんなところで、あれ(膿盆)を洗うのはどうかって。意外と管理者が、そこまで目を配ってないところまで学生は目を向けていて。(中略) こっちが気づかされる場面だったりとか。マニュアルにはこう書いてあったのに、こうしていた、まずいんじゃないとか、指摘されて。」

#### 《誰でも必要な看護管理の視点》

「ベテランナースが現場に出て途中から管理を学

んでいっていうんじゃないで、出発点の中から、その看護管理を勉強してくれてアンテナをちょっと出してきてくれるのはすごい。」

## Ⅶ 考 察

総合看護実習における指導者の認知する学びは、指導者の意図的な経験の場作りにより学びが広がり、指導者と学生の実習目標と学びの共有が必要であること、学びには指導者と学生相互作用があることが明らかになった。

### 1. 意図的な経験の場づくりによる学生の学びの広がり

指導者の語りの内容には、A看護大学の総合看護実習の目標が網羅されていることから、それぞれの指導者および日々の学生指導担当者が実習目標を理解し、その目標達成のために臨床現場の様々な事象を経験できる場づくりをしていることが明らかとなった。【患者中心のチーム医療と連携】は、学生がカンファレンスや多職種ラウンドに参加できるように場を設定し、学生の気づきを促しており、比較的学びが得やすいと指導者は語っている。つまり、学生自身がその場面を直接見て、交わされる専門職間のやりとりを聞く経験であるので、学生にとって印象深く残り、指導者によって学生は学ぶことができたことと認知したと推測できる。さらには、チーム内における役割の違う看護師とともにケアに参加する場を経験しながら【看護ケアを支える仕組みと役割】【リーダーや認定看護師のリーダーシップ】【病棟管理者のマネジメントと役割】の学びにつながっていた。支援を受けて学生は意図的に学習の視点を明確にすることができ、経験した内容を看護管理の視点で考察し学びとしていることも明らかとなった。

松清ら(2012)は、総合看護実習における複数患者受け持ちによる実習効果として「優先順位の判断」「時間調整の必要性」「行動計画の修正」「患者の個別性の理解」の項目を8割以上の学生が学ぶことができたことと明らかにしている。本研究における指導者も、松清らが明らかとした項目と同様の内容である【個人とチーム全体の時間管理と多重課題】を語っており、A看護大学の学生は、複数受け持ちを行う看護師とともにケアを実践する経験や、夜間実習での多重課題の連続と、それにとまなう優先順位判断を行っている看護師のシャドーイングの経験から学びを得ることができたといえる。松谷ら(2012)は、看護系大学新卒看護師が必要と認識している臨床看護実践能力として「人間関係を築いていく力」「セ

ルフマネジメント力」「自己研鑽力」「基盤となる知識力」「看護技術力」「看護へのコミットメント力」「看護業務遂行能力」を抽出し、とりわけ「看護業務遂行能力」「セルフマネジメント力」は新卒看護師に求められる能力として強調されるとしている。

本研究の結果から、看護管理の視点としての【事前学習から広がる実習目標の学び】【個人とチーム全体の時間管理と多重課題】は「看護業務遂行能力」「セルフマネジメント力」、さらには主体的に学習に取り組むための「自己研鑽力」を高める為に必要な学びであり、総合看護実習の経験を通して、学生はそれらの能力を身につけることができたことと推察できる。

また、本研究において学生は個人情報保護に敏感であることも認知されていた。別所ら(2012)も複数の患者受け持つ総合実習を終えた学生のレポートから「タイムマネジメント」「メンバーシップ」「優先順位」「チーム医療」「倫理的判断」「個別的看護」「リスクマネジメント」が学べたことを明らかにしている。本研究においても、医療や看護の継続と連携といったチーム医療とその中での看護の役割については、多職種カンファレンス参加やチーム内の役割を持った看護師のシャドーイングや、ともにケアへ参加する実習方法により学生は学べていると指導者は認知しており、さらには、これらの学びは比較的学びやすい内容であると答えている。これはA看護大学において、1年次の基礎看護学実習Ⅰから4年次の全ての臨地実習の目標に、学生として、専門職業人としての倫理的態度が謳われていること、さらには自己目標達成のために意図的に情報収集し分析を行い看護チームの課題を見出すことや主体的に倫理的行動をとれることも総合看護実習の目標であるため、特にチーム医療における倫理的側面に学生は目を向けていたと推察される。

### 2. 実習目標と学びを指導者と学生が共有することの重要性.

対象者の語りから、学生は自己の目標を設定し実習開始前から指導者と目標を共有していることもより学びを促進していることが認知されていた。何を誰から、いつ、どのようにして学ぶのかということが、シャドーイングが多い総合看護実習において非常に重要であることがわかった。日常的に無意識に行っている看護師の判断基準や、その思考過程、効率化、また事故防止のための配慮などは、観ようとしなければ観えない。指導者と行動し、意識的に観て共にケアを実施し説明を受けることで、はじめて学内講義で学んだ多重課題の解決や他職種との連携

における看護の役割、リーダーの役割などの看護管理の項目と具体的行動とが結びつき、統合される。しかしながら、実習中に学生が経験する一場面は連続している時間と空間が切り取られたものであるため、指導者が意図している学びと違うこともありシャドーイングだけでは【気づきにくい安全対策と教育支援のプロセス】があることが明らかとなり、指導や教員は、学生に学びの内容を言語化させ確認を行うことが非常に重要であることが分かった。また、病院や病棟での看護の役割、個々の看護師の役割は、個に焦点を当てて個別性を重んじたケアを探究することが多い実習を経験してきた学生が学びを深め、全体を見る力を高めるためには日々の振り返りが重要であることがわかった。A看護大学の総合看護実習における1日または2日の教員のラウンドによる指導では、ことさらに、日々の振り返りを支援する指導の重要性が増すこと、指導者と教員の連携を密に行わなければならないことが示唆された。

### 3. 学生と指導者との学びの相互作用

指導者は、学生が効果的に実習目標を達成できるような経験の場を設定しており、その学びを確認しようとしていた。その過程において「学生ならではの率直な質問」により指導者自身も新たな気づきや病棟内の看護管理の視点での課題の発見につながっていた。また、看護チームのメンバーとして、それぞれに役割を持っているため「誰でも必要な看護管理の視点」を再認識させており、このような指導が学生と指導者間での学びの相互作用となっていた。一方、看護師が日常的に無意識に行っている、可視化、言語化しづらい判断過程や根拠、工夫、また、教育支援のプロセスなどは、学ぶ場として設定することが指導者にとっても困難であるため、学生の学びが困難であると語られたと推察される。

以上のことから臨床経験が少ない学生に、具体的に臨床での看護とそれを支える仕組みや取り組みをイメージ化して実習に臨めるよう、学内演習や学生個々の自己目標の明確化と事前学習支援が必須であり、教員と指導者が学びの場面と内容を明確にして担当者にも伝えること、実習中にはタイムリーに学びの確認を行い、フィードバックする時間の確保と学生間での学びの共有する必要性が示唆された。また、学内においては、臨床での看護とそれを支える仕組みや取り組みをイメージ化できる講義内容の検討、具体的な体験の場を設定した学内でのシミュレーション学習とともに、学生個々の自己の目標の明確化と行動計画、事前学習支援の強化が必須であ

ることが示唆された。

## Ⅷ 本研究の限界と課題

本研究は、A看護大学の総合看護実習施設の指導者を対象に、指導者が認知した実習での学生の看護管理の視点における学びを明らかにする目的で行った。しかし、研究対象者が7名の語りに限られている。今後は、実習指導者の研究対象の施設を拡大し、より多くの学生の学びを検証していく必要がある。

## Ⅸ 結 語

総合看護実習における指導者の認知する学生の学びは【看護ケアを支える仕組みと役割】【個人とチーム全体の時間管理と多重課題】【リーダーや認定看護師から学ぶリーダーシップ】【患者中心のチーム医療と連携】【個人情報保護に関する情報管理】【病棟管理者のマネジメントと役割】【事前学習から広がる実習目標の学び】【気づきにくい安全対策と教育支援のプロセス】【学生の学びから得られる指導する側の学び】の9のカテゴリーが抽出され、指導者は意図的な経験の場づくりを行うことにより、実習目標、学生の自己の目標を共有することで目標のおおむねを達成していると認知していた。また、指導者と学生の学びには相互作用があることが明らかとなった。

## 謝 辞

ご多忙にもかかわらず、本研究にご協力いただきました看護部長および臨地実習指導者の皆様に心からお礼を申し上げます。

本研究は、平成23年度日本赤十字広島看護大学奨励研究の助成を受けて実施いたしました。

## 文 献

- 別所史恵, 石橋鮎美, 板根可奈子, 平野文子, 三島三代子 (2012). 複数の患者を受け持つ総合実習における看護学生の学び. 島根県立大学出雲キャンパス紀要, 7, 59-69.
- 松清由美子, 瀬川睦子, 長田艶子 (2012). 総合看護学実習における複数患者受け持ちによる実習効果-成人看護学領域における検討-. 奈良看護紀要, 8, 31-39.
- 松谷美和子 (2007). 【実践力が育つ学内演習-聖路加看護大学における取り組み】臨床-基礎教育の連携による学内演習の構築. 看護展望, 32 (8), 764-768.

松谷 美和子, 佐居 由美, 奥 裕美, 堀 成美, 高屋  
尚子, 三浦 友理子 (2012). 看護系大学新卒看護  
師が必要と認識している臨床看護実践能力 1年

目看護師への面接調査の分析, 聖路加看護学会誌,  
16巻1号, 9-19.



# Learning of nursing students recognized by the clinical practicum instructors in comprehensive clinical practice — focus on aspects of Nursing management —

Miwa MURATA<sup>\*1</sup>, Yuka MURATA<sup>\*2</sup>, Takeshi NIINUMA<sup>\*3</sup>, Sachie SHINDO<sup>\*4</sup>

## Abstract:

The purpose of the present study was to clarify Learning of nursing students has been recognized by the clinical practicum instructors in comprehensive clinical practice by conducting a qualitative descriptive study. After explaining to subjects the objective, methods, contents, ethical considerations of the study, semi-structured interviews were conducted on a total of seven instructors who gave consent. Learning of nursing students recognized by the instructors were classified into the following nine core categories; 【system and roles in supporting the nursing care】 【personal and time management and multiple challenges of the entire team】 【team medical and cooperation for the patient-centered】 【learning leadership from leaders】 【information management for the protection of personal information】 【managements and role of ward nurse manager】 【objectives of clinical practicum extended from pre-learning】 【hard to notice about safety management and education process】 【learn of the acceptance side to get from learning of students】

Students had been successful in training by field development of self-goal setting and leaders of experience with prior learning.

## Keywords:

Nursing management, Clinical practicum instructor, Nursing students

---

\* 1 Japanese Red Cross Kumamoto Hospital

\* 2 Japanese Red Cross Hiroshima College of Nursing

\* 3 Japanese Red Cross Akita College of Nursing

\* 4 NPO Kango Academeia Sachi

